

# 『Mind Charging』

第 97 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 8 月 27 日

## 豊臣秀吉の名言



### 人の意見を聞いてから出る知恵は、 本当の知恵ではない。

この言葉で勘違いしたくないと思うところは、『人に教わったことは自分の力にならない』ということではないということです。現代はインターネットやスマホの普及と発達により、ほとんどの疑問に対する答えを自分で調べることができます。しかしそれも人から教わっていることに等しいわけで、特に現代のように“何もかもが揃っている”と感じるような時代で自分が新たに誰も想像しないようなことを考えるのはなかなか難しいことです。

秀吉がこの言葉から伝えたいことは、『何もかもを人に頼るな』ということや、『自分の感覚を大切にせよ』というメッセージにも受け取れます。誰からやってるから・・・というような流されるような思考ではなく、自分がどうありたいか、何を目指すべきなのかを見極める必要があると思います。みなさんも聞いたことがあると思いますが、『自分のビジョンを持つ』ということの重要性を説いた言葉なのではないでしょうか。自分を知り、その上で自らを高める努力をどのようにしていくのか。それを理解して進んでいくことこそが本当の知恵なのかもしれません。(編集委員：入試広報室 鈴木)

豊臣 秀吉(とよとみ ひでよし / とよとみ の ひでよし、旧字体:豊臣 秀吉)、または羽柴 秀吉(はしば ひでよし)は、戦国時代から安土桃山時代にかけての武将、大名。天下人、(初代)武家関白、太閤。三英傑の一人。初め木下氏で、後に羽柴氏に改める。皇胤説があり、諸系図に源氏や平氏を称したように書かれているが、近衛家の猶子となって藤原氏に改姓した後、正親町天皇から豊臣氏を賜姓されて本姓とした。尾張国愛知郡中村郷の下層民の家に生まれたとされる(出自参照)。当初、今川家に仕えるも出奔した後に織田信長に仕官し、従来にはない斬新な奇策や政策で次第に頭角を現した。信長が本能寺の変で明智光秀に討たれると「中国大返し」により京へと戻り山崎の戦いで光秀を破った後、清洲会議で信長の孫・三法師を擁して織田家内部の勢力争いに勝ち、信長の後継の地位を得た。大坂城を築き、関白・太政大臣に就任し、朝廷から豊臣の姓を賜り、日本全国の名を臣従させて天下統一を果たした。天下統一後は太閤検地や刀狩令、惣無事令、石高制などの全国に及ぶ多くの政策で国内の統合を進めた。理由は諸説あるが明の征服を決意して朝鮮に出兵した文禄・慶長の役の最中に、嗣子の秀頼を徳川家康ら五大老に託して病没した。(Wikipedia 参照)